

2022

研究・計画・設計・ワークショップ

美術館・博物館

(株)岡田新一設計事務所

- 0. 「美術館・博物館」 実績
- 1. 出光美術館（門司）
- 2. 宇都宮美術館
- 3. 宮崎県立美術館
- 4. 岡山県立美術館
- 5. 岡山市立オリエント美術館

用途	竣工年	建築名称	所在地	構造・階数	規模(m ²)	備考(特徴、併設施設など/受賞歴/掲載雑誌など)
美術館	1979年	岡山市オリエント美術館	岡山市	RC造-3/1	4,336	建築業協会(BCS)賞(1981年)、公共建築賞(1988年)、BELCA賞ロングライフ部門(2000年) 第6回日本建築家協会25年賞(2006年)
	1984年	北海道立三岸好太郎美術館	札幌市	RC造-2/1	1,201	建築業協会賞・札幌都市景観賞(1985年)
	1987年	岡山県立美術館	岡山市	SRC造-4/2	14,269	SDA賞(1988年)、公共建築賞(1992年)
	1988年	麻布美術工芸館	東京都港区	RC造-4/2	3,178	
	1988年	函館山ロープウェイ展望台ギャラリー	函館市	S造一部RC造-3/0	300	公共建築賞(1992年)
	1989年	中近東文化センター	東京都三鷹市	RC造-2/3	7,022	第12回BELCA賞ロングライフ部門(2003年)
	1995年	宮崎県立美術館	宮崎市	SRC造-3/1	10,333	恩賜賞・日本芸術院賞(1995年)、建築業協会賞(1995年)、照明学会照明普及賞(1995年)
	1996年	宇都宮美術館	栃木県宇都宮市	SRC造一部S造-2/1	9,388	建築業協会賞(1998年)
	2009年	岡山県立美術館(改修)	岡山市	SRC造-4/2	14,269	第13回日本建築家協会25年賞(2014年)
	2011年	宇都宮美術館(改修)	栃木県宇都宮市	SRC造一部S造-2/1	9,388	
	2012年	中近東文化センター(改修)	東京都三鷹市	RC造-2/3	7,022	
	2014年	オリエント美術館 (長期修繕計画策定のための調査業務)	岡山市	RC造-3/1	4,336	
	2016年	出光美術館 門司	北九州市	RC造-3/0	2,186	第11回建築九州賞奨励作品(2017年)、第8回北九州市都市景観賞建築デザイン奨励賞(2018)、近代建築2017年8月号掲載
	2017年	宇都宮美術館 (施設劣化診断及び改修手法等調査業務)	栃木県宇都宮市	SRC造一部S造-2/1	9,388	
2021年	岡山市オリエント美術館(改修)	岡山市	RC造-3/1	4,336		
博物館	1988年	オニツカスペースセンター	ハワイ	RC造一部S造-2/0	314	
	1988年	日野市ふるさと博物館	東京都日野市	RC造-2/1	1,152	
	1988年	福島市古関裕	福島市	SRC造一部RC造-2/0	657	
	1989年	新宿区立新宿歴史博物館	東京都新宿区	SRC造一部RC造-3/2	3,846	
	1989年	まほろば童話の里 浜田広介記念館	山形県高島町	RC造一部木造+S造-2/0	767	
	1992年	函館市開港記念館(旧イギリス領事館)	函館市	レンガ造+木造-2/0	990	
	1993年	日本郵船歴史資料館	横浜市	RC造-3/0	1,847	
	1993年	陸別町寛斎資料館	陸別町	RC造一部S造-2/0	657	
	1996年	小林一茶ゆかりの里	長野県高山村	木造+RC造一部S造-2/0	1,048	
	1999年	みちのく北方漁船博物館	青森市	S造-2/0	3,320	
	2000年	トッパン小石川ビル 印刷博物館	東京都文京区	S造+SRC造+RC造-21/3	4,150	第42回建築業協会賞、文京区都市景観賞(2001年)
	2000年	大潟村干拓博物館・産直センター	秋田県大潟村	SRC造+S造-2/0	3,627	第7回空間デザインコンペティション(作品部門)銀賞(2000年)
	2002年	まほろば童話の里 浜田広介記念館(増築)	山形県高島町	RC造-2/0	848	

建築概要

所在地 福岡県北九州市門司区
 敷地面積 2,435.00 m²
 建築面積 1,098.21 m²
 (美術館：882.61 m²、創業史料室：215.60 m²)
 延べ面積 2,604.93 m²
 (美術館：2,186.78 m²、創業史料室：418.15 m²)
 展示面積 560.17 m²
 (展示室1：402.47 m²、展示室2：157.70 m²)
 構造 鉄筋コンクリート造
 規模 地上3階
 竣工 2016年7月

■地域文化の発展向上をめざして

平成12年、出光興産創業の地である北九州市の要請を受け、福岡出光美術館を、現在の地である門司港レトロ地区の倉庫（邑本倉庫）を改装して開館した。創業者出光佐三の生涯を紹介する「出光創業史料館」を平成17年に増築した。倉庫建物の老朽化や漏水、セキュリティの問題により、重要文化財など貴重なコレクションの展示が困難な状況であったため、旧倉庫部分を解体し、建替えを行った。新美術館では、様々な催しや企画展など門司港レトロ地区の一躍を担う施設として位置付けている。

■歴史保存地区の美術館

門司港レトロ地区のレンガ建築と調和する建物として、せり器質タイル(レンガ調)やコンクリート打放し仕上げを採用した。建築をコンパクトな3階建てにすることで、展示室を2階以上に配置し、高潮、防犯、安全性に配慮するとともに、1階はイベントホールを配置し、市民や観光客が利用しやすい構成とした。

■展示室「独創と美とふれあう」

不整形の建築形態を有効に活用し、展示室を極力整形なかたちで面積を確保するために、ギャラリー型ではなくホール型の構成を採用した。「ホワイエ・階段」空間は、階段上部のトップライトからの柔らかい光に満たされている。展示室は、国内外の優れた作品や作家の企画展を行うことを前提とした建築、空調、展示ケースの計画を行った。



西側外観：レンガ調せり器質タイル(レンガ調)は「しのぎ目地」を採用し、陰影のある外観に



東側外観：コンクリート打放し仕上げ



展示室1：主展示室



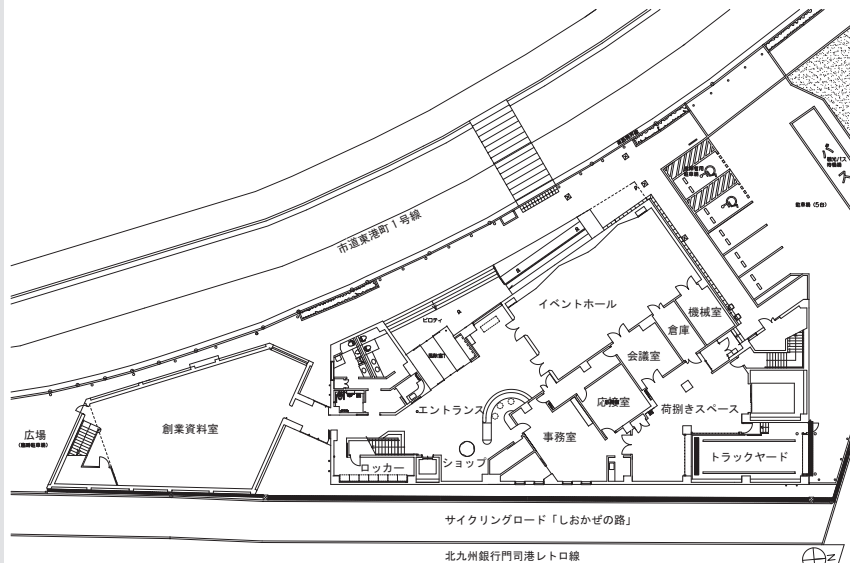
展示室2



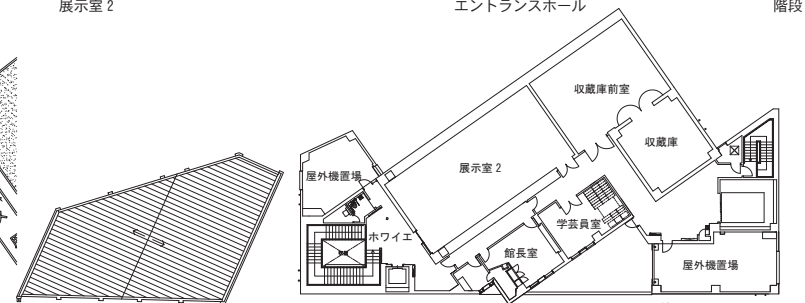
エントランスホール



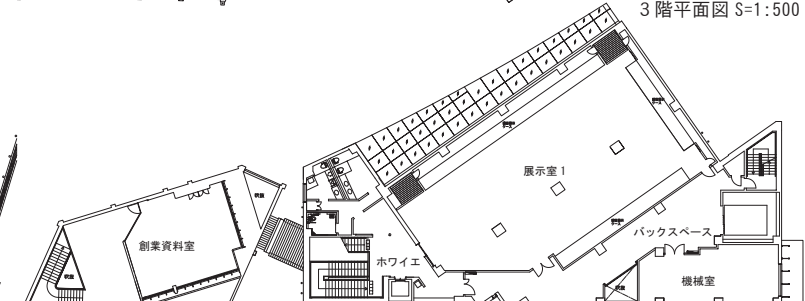
階段



1階平面図 S=1:500



3階平面図 S=1:500



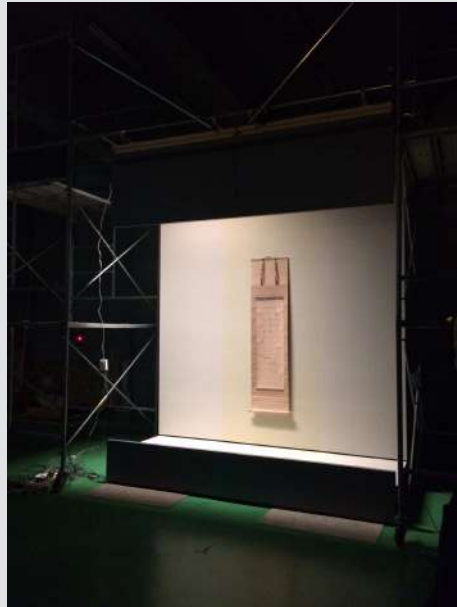
2階平面図 S=1:500

■壁面展示ケース モックアップでの検証

制作請負者の決定後、木製巾3m程度のモックアップを制作し検証を行った。
 検証は、ケース内奥行き及び床面高さ寸法、照明器具関連(色温度、照度、角度、位置、ライティングレール位置等)、外部塗装及び内部クロス等の項目に対して行った。
 照明器具は、紫色励起白色LED照明を扱うメーカー2社の製品を比較検証した。内部クロスは、開館までのシーリング期間が短いことから、美術館用クロス2色を比較し、美術品の見せ方(展示方針)により決定した。

■壁面展示ケース仕様

- 気密性能 : エアタイト(空気交換率0.2回/日程度)
- 開閉機構 : 内開きフラット扉(手動)
- 調湿方法 : 調湿剤アートソープカセットタイプ
- ガラス : 高透過ガラス t10
- 熱霧ガラス : フロート合わせガラス t3+3
- 照明装置 : 紫色励起白色LED照明
プリセット調光システム(4シーン)
- 外装 : スチール t1.6アクリル樹脂焼付塗装
- 床面 : F☆☆☆☆合板 t12+12+中間膜シート+クロス張り
- 壁面 : GB-R t9.5+防湿シート
+F☆☆☆☆合板 t12+12+クロス張り
- 天井面 : F☆☆☆☆合板 t9+EP



モックアップ全体



照明器具検証-1



照明器具検証-2



展示方法別の照明検証-1



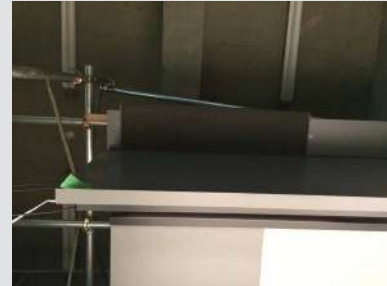
展示方法別の照明検証-2



展示方法別の照明検証-3



ケース断面方向からみる



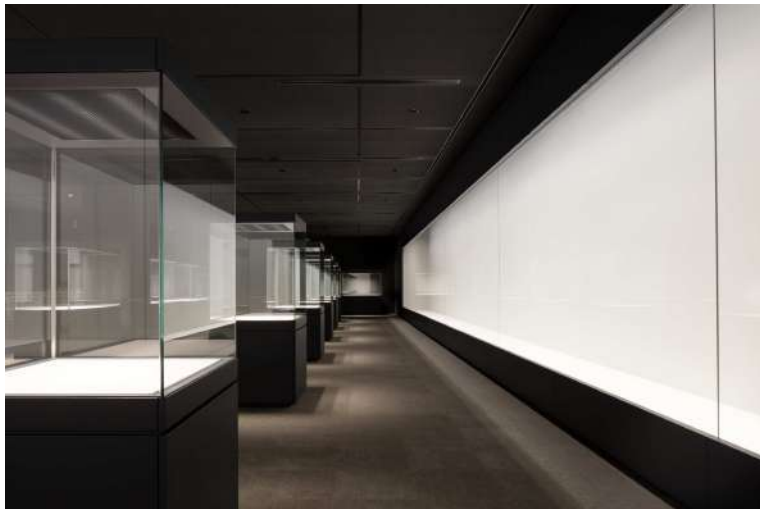
室内天井仕上げと外装パネル色の検証



天井仕上げの検証



室内床仕上げと外装パネル色の検証



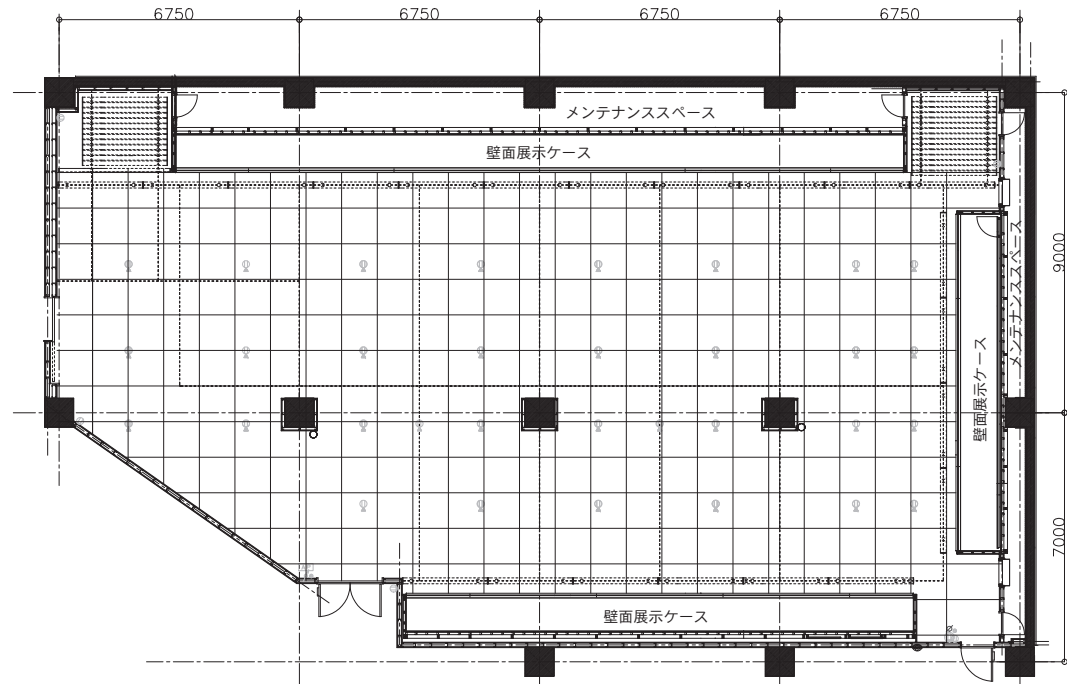
■展示室1(主展示室)

出光コレクションの和物の展示を基本として、左回りを原則とした展示室レイアウトを想定している。展示のはじめと終わりでメリハリをつけやすいようにスパン割を偏心させた。

壁面展示ケースは3面に配置し、中央部は独立展示ケースを配置する。展示パターンを学芸員と共に検証し、移動展示パネルのモジュールに合わせて床コンセントを用意した。、外壁面で問題が発生した場合に備え、外部に面する展示ケース背後にメンテナンススペースを設けている。

天井面は、移動展示パネルのレール、ライティングダクト、空調ブリーズライン、メンテナンス用ダウンライトを系統的に配置している。

移動展示パネルは、壁面展示ケース全面を覆うことができる枚数を用意し、企画展が開催しやすい計画。また、全てのパネルの間口寸法を統一することにより、収納がしやすい。



2階展示室1平面図 S=1:150

建築概要

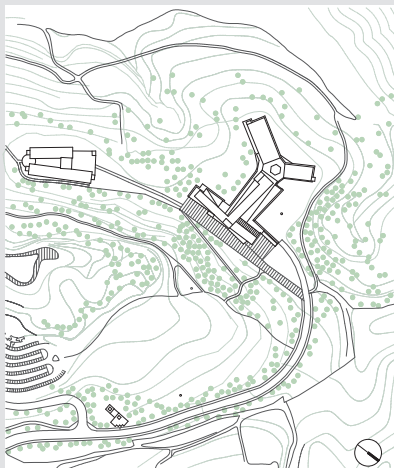
所在地 栃木県宇都宮市長岡町 1077
 敷地面積 263,424 m²
 建築面積 5,036 m²
 延床面積 9,388 m²
 構造 鉄筋鉄骨コンクリート造一部鉄骨造
 規模 地下1階 地上2階 塔屋1階
 竣工 1996年8月

■森の美術館

広大な森に配置された自然美術館である。3つの棟が森の中へ翼を伸ばし、さらに1階と2階をわずかに軸をずらす複合、重層構成によって自然との調和を図り柔らかな交わりを意図している。建築は平面的、立体的に分解され、数多くの建物が森の中に組み込まれ、馴染んでいく。さらに建築に使われた3種類の素材、漆喰壁のようなタイル壁、板壁のようなアルミスパンドレル壁、土地に特有の大谷石、これらの素材の組合せが複合を完成させていく。ひとつの建物が自然と対峙するような対立固さを避けて、いくつかの建物が聚楽を形成するように複合しながら、空間を囲み自然と融合していく。

■森とのつながり

森の調査から始め、美術館用地の北側には杉の常緑樹林、南側にはコナラを主体とする落葉樹林があり草地との境界に見事なエッジをつくっていた。調査を通して①敷地の起伏はそのままの状態を尊重する②林のエッジは保存する③大谷石敷きによる自然に溶け込んだ山道は歴史的語彙として踏襲する。これら3つの基本方針をデザインの最初に設定した。



配置図 S=1:6000



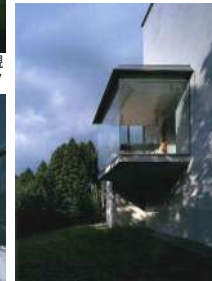
コリドールに面した外観
モノリシックな白磁のボーダータイルの壁と庇



磁器質タイル面：樹木のシルエット



アートフォーラムに面した外観
地場の大谷石と大谷石表面のレリーフ



企画展示室端部



アートフォーラム



エントランスホール



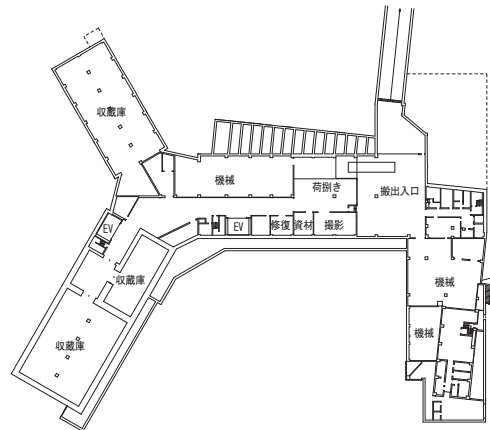
中央ホール



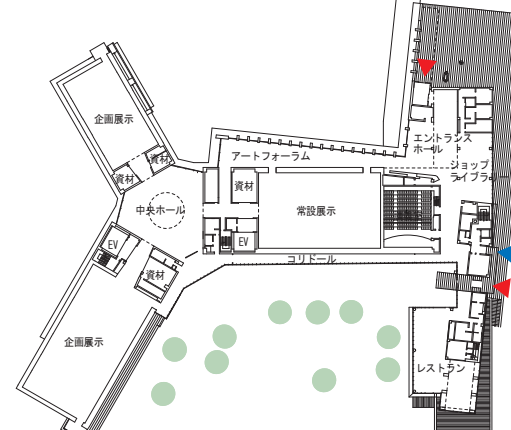
企画展示室



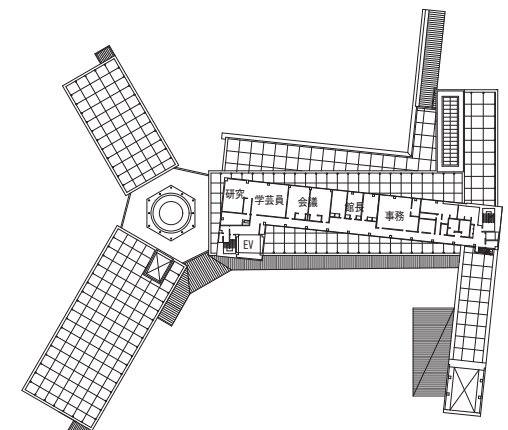
コリドール



地下1階平面図 S=1:2000



1階平面図 S=1:2000



2階平面図 S=1:2000

建築概要

所在地 宮崎市船塚3-210 (県総合文化公園内)
敷地面積 34,698 m²
建築面積 3,428 m²
延床面積 10,333 m²
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
規模 地下1階 地上3階 棟屋1階
竣工 1995年3月

■場の専有・場の共有

広場は県立図書館、県立劇場、それらをつなぐ県立美術館の3館から形成されている。広場は、太陽を一身に受け、干渉物を経ず、直接に天と地が対峙する空間である。広場の空間は、美術館正面の狭間から建物の内部へと流入する。空間は東の広場から西の広場へ連携していく。かたちに固有の意味があるように空間には流れの意味がある。三次元の要素にさらに時間のファクターが加わる。建築内部で逍遙する空間が少ないこととこのような空間の流れとは相補的な関係をつくっている。美術館として専有する場は極めて少ないが、空間が建物を貫き流れることによって広がっていく。空間の広がり専有空間の安定性につながり、場所の持つ本性を引き出すことでもある。

■アートフォーラムと展示室

アートフォーラムは展示空間を美術に結び付ける要の場であり、展示室空間をまとめている。2階のアートフォーラムを挟んで企画と常設の展示室を配し、1階にギャラリーを配置した。画と常設の展示室と3階の収蔵庫及び学芸員室と直結させ、学芸員にとってもっとも使いやすいダイレクトアクセスとした。また、学芸員室を事務室と同フロアに配置し、管理者間の密接な関係を重視している。

■展示室

各展示室は二分割及び三分割を可能にするモジュールをもった20×20mのフレキシブルな空間を単位としている。展示室の基本的なタイプであるギャラリー型とホール型のなかからホール型を採用した。天井吊の可動展示壁を展示壁面として採用しているために、実際の展示空間はギャラリー型に近い。それら展示室を横に長い建築形態の中にコンパクトに納めている。それは広場をつくる超スケールの壁を可能にすることでもあった。



外観 (正面)



外観 (彫刻広場側)



東側ファサード



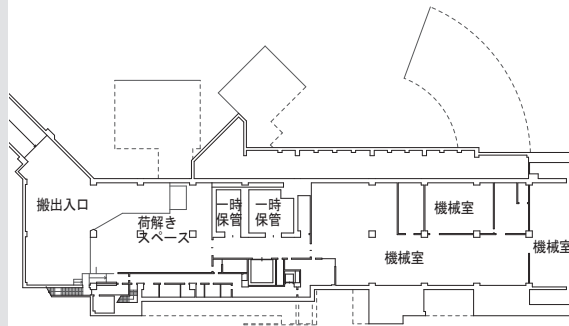
外観 (妻側)



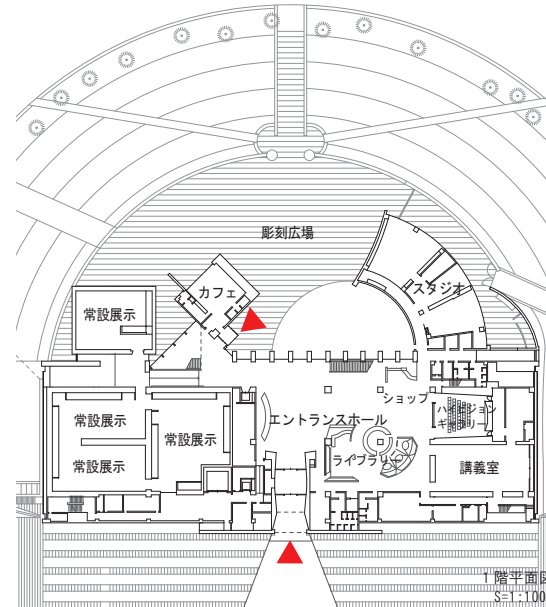
アートフォーラム



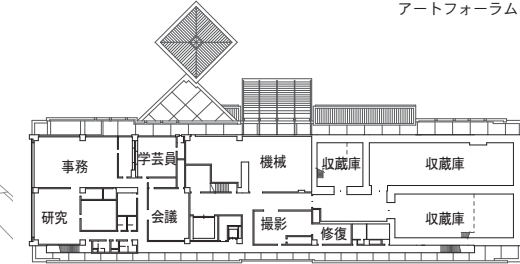
アートフォーラム



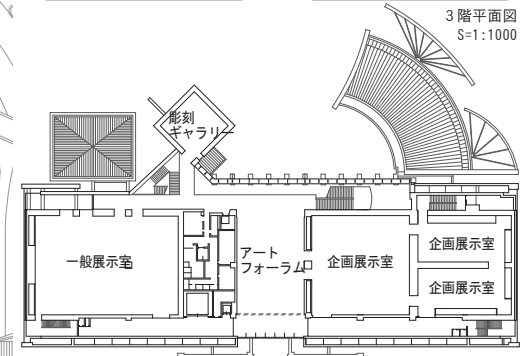
地下1階平面図
S=1:1000



1階平面図
S=1:1000



3階平面図
S=1:1000



2階平面図
S=1:1000

建築概要

所在地 岡山県岡山市天神町 8-120
敷地面積 6,047 m²
建築面積 3,721 m²
延床面積 14,269 m²
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
一部鉄筋コンクリート造
規模 地下2階 地上4階 棟屋1階
竣工 1988年10月

■反転

石造りの基部と滑らかなタイル張りの母体と金属を光らせた頂部の三層構成の外観は、異質のものとの組合せとして不連続に積み重ねている。

かつて岡山城が築かれた岩盤の上に県立美術館は建つ。歴史ある岡山中心地区の都市環境において、市民が昔から培ってきた都市のスケールとボキャブラリーによる空間と量塊の連繫によってデザインされている。正面広場、屋内広場、中庭へと繋がる外部、半外部空間を内部に取り込み、導入、展示、イベントなど都市に開いた空間となっている。地階に企画展示、2階に常設展示を配し、2009年には展示室を全面改修し、展示ケース、照明機器の改修を行なった。300人のホールを併設。



外観（エントランス）



外観（正面広場からアートフォーラムをみる）



外観（コーナー部）



外観（南側をみる）



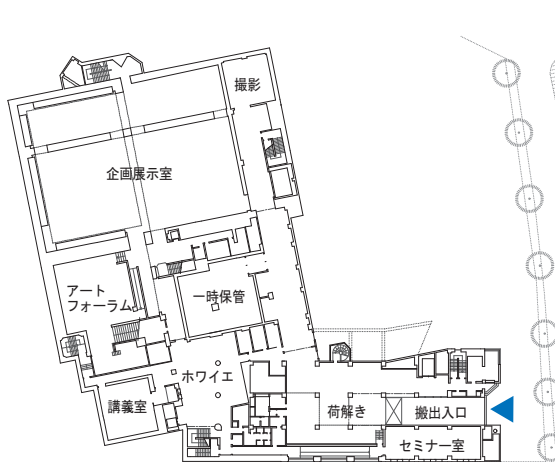
アートフォーラム



上：エントランスホール / 下：ホール



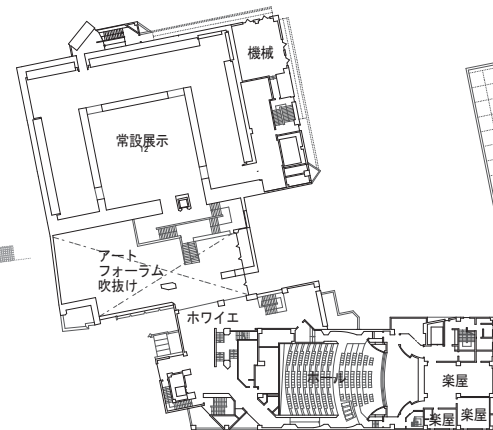
常設展示室



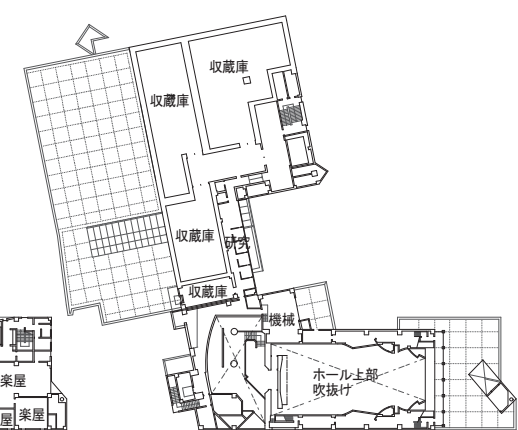
地下1階平面図 S=1:1000



1階平面図 S=1:1000



2階平面図 S=1:1000



3階平面図 S=1:1000

建築概要

所在地 岡山県岡山市北区天神町9-31
敷地面積 1,785.60 m²
建築面積 1,386.89 m²
延床面積 4,336.13 m²
構造 鉄骨コンクリート造
規模 地下1階 地上3階 棟屋1階
竣工 1979年3月

■塔の空間

岡山市在住の実業家、故安原真二郎氏が長年月をかけて集められたオリент関係のコレクションが岡山市に寄贈されたことが、この美術館設置の発端であった。最初から収蔵される美術品が決まっていたことは、この建築の表現を決定づけた。この建築は「塔」が存在する。明白な「塔」の形態ではなく抽象的な塔として、空へ登っていく大きな吹抜けは、外形もたない空間としての「塔」である。

塔の空間は、抽象的な壁を垂直にずらしながら、積上げることで内部に複雑な空間の組合せによる結合をつくりだしている。オリентの古代から中世にかけての壁の構築には積むという行為によって建築をつくりあげてきた無償の情熱が宿っている。そこに物的な壁の意味を越えた思想が宿るのを見ることが出来る。オリент美術館では、多くの職人が関わった打ち放しコンクリート研り仕上げの無償の行為による壁体による抽象的構成と壁面に施された様々のアルチザン的な打ち込みパターン、天井色彩タイルの模様、手摺のディテールなどの細密により空間がつけられている。



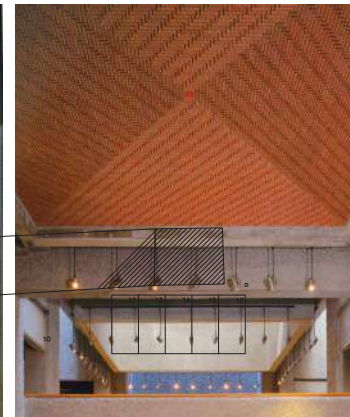
外観



中央ホール



打ち放しコンクリート研り仕上に柔らかい表情を与えるハイサイドライトからの光



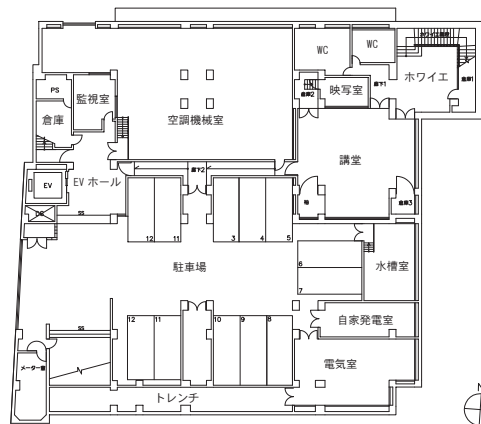
中央ホール天井：手描き施釉タイル打ち込み



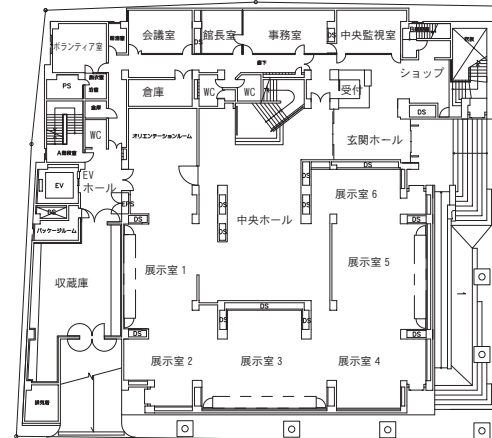
中央ホール



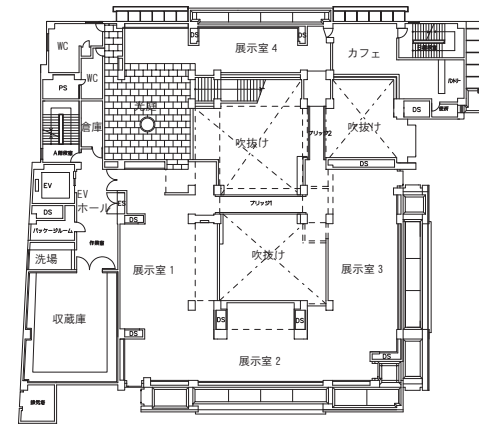
光庭：上部トップライトからの光が降り注ぐ



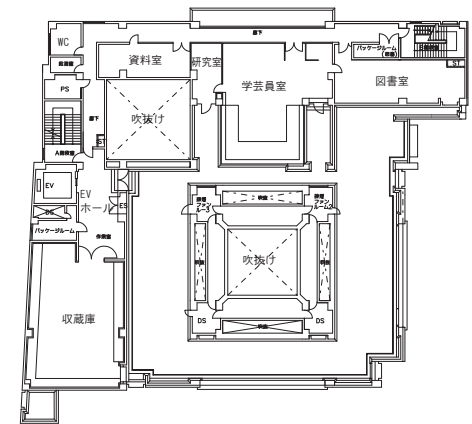
地下1階平面図 S=1:500



1階平面図 S=1:500



2階平面図 S=1:500



3階平面図 S=1:500